

ユングと易

易はユングの「共時性（シンクロニシティ）」の考えに大きな影響を与えました。ユングはなぜ易が当たるのかについて説明する必要があったのです。

1920年頃、易の研究に取り組みはじめたユングは、状態の把握に苦しむ患者に対して易を立てるようになりました。（「ユング自伝2」みすず書房）。晩年になるに従い更に易に傾倒していったと言われていています。

当初、葦の束を筮竹代わりに用いていましたが、後には3枚のコイン投げて易を立てていました。河合隼雄先生もチューリヒのユング研究所で、教育分析中に患者との対応で迷ったときには易を立てていたことを報告しています（「宗教と科学の接点」岩波書店）。

この講座ではユングの書いた「易と現代」（ユング心理学選書5）を読み、ユングと易の関連を考えます。河合隼雄先生の立てた易の結果についても考えます。最後に皆で易の実習をします。

- 講師 浜野 聡（ソンディ心理学研究所・臨床心理士）
- 日時 2019年5月2日（木） 13:30～16:30
- 場所 ソンディ心理学研究所
西武池袋線「石神井公園」駅 南口徒歩2分
<http://www.szondi.jp/>
- 参加費用 7000円（資料代込み）



ソンディ心理学研究所

〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-25-4 ダイアパレス石神井公園 510号室
TEL:03-6386-0482 E-mail info@szondi.jp URL: <http://www.szondi.jp/>